

特集2：2009年南アフリカ総選挙 2009年南アフリカ選挙とクワズールー・ナタール州

著者	佐藤 千鶴子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アフリカレポート
発行年	2009-09
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00008092

2009年南アフリカ選挙と クワズールー・ナタール州

佐藤千鶴子

はじめに

1994年の民主化以降、南アフリカ(以下、南ア)では、国会選挙と州議会選挙が5年に1度同時に実施されてきた。民主化後4度目となった2009年の国会選挙の焦点は、前年12月に与党アフリカ民族会議(African National Congress: ANC)から分派して結成された人民会議(Congress of the People: COPE)がANCの一党優位支配をどこまで切り崩せるかという点にあった。結論だけを述べると、ANCの得票率は69.69%から65.90%へ前回の選挙よりも3.8ポイント減少したもののCOPEは得票率7.42%とふるわず、ANCに対する内部からの挑戦は失敗に終わった。

州議会選挙では、南アの9つの州のうち1994年以降ANCが圧倒的な支配権を握ることのできなかった西ケープ州とクワズールー・ナタール州(以下、KZN州)で正反対の結果が出た。西ケープ州議会では国会の最大野党である民主同盟(Democratic Alliance: DA)に与党の地位を譲ったの

に対し、KZN州議会では6割を超える票を獲得しANCが圧勝したのである。

1980年代半ばから90年代末に至るまでANC支持者とインカタ自由党(Inkatha Freedom Party: IFP)支持者の間で暴力的対立が頻発するなどもっとも不安定な地域であったKZN州において、ANCがついに国政に匹敵する圧倒的支配を確立した一方で、アパルトヘイト時代のホームランド体制に由来する唯一の生き残り政党であったIFPの支持率は著しく減少した。本稿では、民主化以降のKZN州におけるANCとIFPの政治的競合を振り返った上で、今回の選挙でANCの大勝利をもたらした要因について考察する。

1. KZN州における選挙の動向

民主化以降の南アの国会選挙とKZN州議会選挙における主要政党の得票率を表に示す。南アの国会・州議会選挙は比例代表制をとり、投票用紙には政党のシンボルマークと代表者の写真が印刷

表 国会選挙とKZN州議会選挙における主要政党の得票率

(単位: %)

	1994年選挙			1999年選挙			2004年選挙			2009年選挙			
	ANC	IFP	NP	ANC	IFP	DP	ANC	IFP	DA	ANC	IFP	DA	COPE
国会選挙(全国)	62.65	10.54	20.39	66.35	8.58	9.56	69.69	6.97	12.37	65.90	4.55	16.66	7.42
国会選挙(KZN州)	31.61	48.59	15.76	39.77	40.45	9.76	47.47	34.87	10.00	63.97	20.52	10.33	1.55
KZN州議会選挙	32.23	50.32	11.21	39.38	41.90	8.16	46.98	36.82	8.35	62.95	22.40	9.15	1.29

(注) NP(国民党), DP(民主党)

(出所) 南ア独立選挙委員会ウェブサイト(<http://www.elections.org.za>)より筆者作成。

されている。州議会選挙に立候補する政党は州ごとに異なるので、国会選挙と州議会選挙の投票用紙は同一のものではなく、有権者は国会選挙と州議会選挙で別々の政党に投票しても構わない。

まず、国会選挙におけるANCの得票率をみると、前回の2004年選挙までは全国の数値とKZN州での得票率の間に20ポイントを上回る開きがあったのに対し、今回の選挙では両者に何ら違いが見られなくなった。IFPについては、全国得票率とKZN州のそれが常に大きく隔たっており、一貫してKZN州を基盤とする地方政党以上の存在にはなり得ていないことが明かである。

KZN州議会選挙については、2004年選挙の際にすでにANCが与党の地位を獲得していたものの、得票率の伸びは前回よりも今回の選挙の方がはるかに大きい。1994年選挙から1999年選挙、そして1999年選挙から2004年選挙において、ANCの得票率の伸びは、32.23%から39.38%、39.38%から46.98%といずれも7ポイント程度であったが、今回(2004年選挙から2009年選挙)は46.98%から62.95%と16ポイントの増加となった。これに対してIFPの得票率は、与党の座を失った前回選挙では41.90%(1999年選挙)から36.82%(2004年選挙)へ5ポイントの減少にとどまっていたのに対し、今回は36.82%(2004年選挙)から22.40%(2009年選挙)へ14ポイントの減少と

なった。民主化後初の選挙では50%を超えていたIFPの得票率は半分以下に下落し、逆にANCのそれはほぼ2倍に増えた。

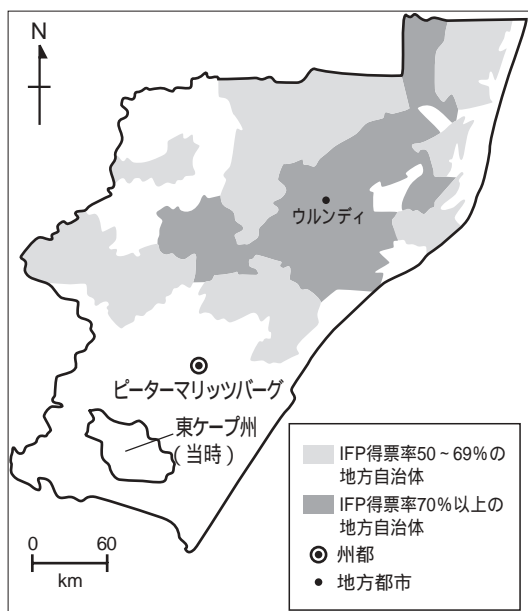
IFPの前身であるインカタは、そもそもクワズールー・ホームランドにおいてズールー人という特定の民族集団を基盤に設立された政党である。設立当初からホームランドの首長であるマンガスト・ブテレジが党首を務め、1985年には党員が公称100万人を超える大政党であった(Maré and Hamilton[1987: 71])。とりわけホームランドの末端の行政機構を担った伝統的指導者を通じて農村地帯に支持者を多く抱え、1990年に合法化されたANCが都市タウンシップの若者を中心に影響力を拡大していった後にも、IFPは農村住民から揺るぎない支持を得ていた。

それゆえKZN州におけるANCとIFPの競合には、都市と農村の間での支持政党の分離という側面が少なからず含まれていた。それが今回の選挙では大きく変化した。このことは、地方自治体ごとの各政党の得票率から明らかになる。現在の地方自治体の境界が確定した2004年と2009年の選挙結果しか比較することができないが、それでも興味深いことがわかる。

2004年のKZN州議会選挙において、ANCが50%以上の得票率を達成したのは、ダーバン大都市圏、州都ピーターマリッツバーグを中心とす



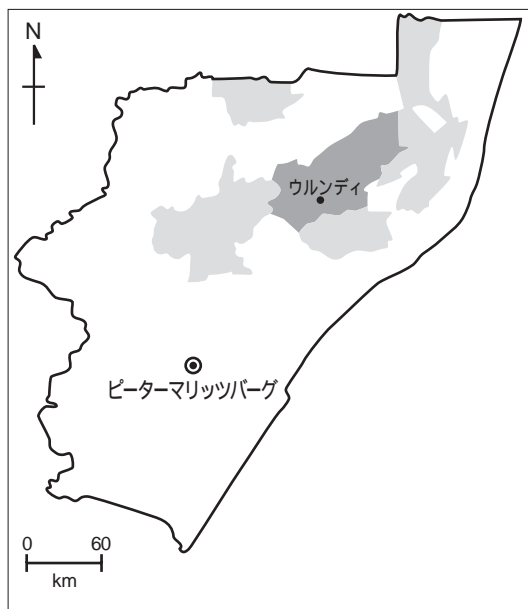
地図1 2004年KZN州議会選挙



(注) 2004年選挙時と2009年選挙時の州境は一部異なる。

(出所) 地図1, 地図2とも南ア独立選挙委員会ウェブサイト (<http://www.elections.org.za>) より筆者作成。

地図2 2009年KZN州議会選挙



るミッドランド地方、東ケープ州に近いKZN州南部に限られていた。他方、旧クワズールー領土の集中するKZN州北部から西部にかけての広大な地域ではIFPが50%以上の得票率で、ANC優勢の地域とIFP優勢の地域が地図上でくっきりと二分されていた(地図1)。ホームランドの行政機構が置かれていたウルンディやその北に位置し、ズールー王家の宮殿があるノンゴマではIFPが90%以上の票を獲得していた。

それに対して2009年のKZN州議会選挙の結果をみると、以前からANCが優位にあった地域ではANCの得票率が軒並み10～20ポイント増加したのに対し、IFPが50%以上の票を得た自治体は25から11へ半分以上となった(地図2)。IFPの得票率が70%以上の自治体も2004年州議会選挙では10あったのに対し、2009年州議会選挙ではウルンディとノンゴマのみで、しかもこれら両地域でもIFPの得票率は10ポイント程度の減少となった。IFPは従来から支持基盤の弱かった都市部やKZN州南部のみならず、北部や西部においても得票率を大きく減らし惨敗したのである。

2. IFPの凋落

ANCが今回の選挙でKZN州において大躍進した背景としてまず指摘できるのが、ライバル政党IFPの弱体化である。過去4回のKZN州の選挙結果を見ると、国会選挙・州議会選挙ともにANCが順調に得票率を伸ばしてきた一方で、IFPは逆に得票率を減らしてきたことがわかる。つまり、今回のKZN州議会選挙におけるIFPの大敗は、これまでの選挙の趨勢の延長線上に位置づけられる。では、IFPの凋落をもたらした原因は何か。それには3つの要因が考えられる。

第1に、1994年以降、支部の発足や地方議会

選挙を通じてANCがローカルレベルで着実に存在感を増していったという事実が挙げられる。IFPは、伝統的指導者を通じて影響力を行使していたのみならず、婦人部や青年部という組織を備えた政党であり、1994年総選挙の時点では、KZN州の都市タウンシップ以外の地域はほぼ完全に支配していた(Sitas[2008: 88-89])。それに対して現在では、たとえ少数派であったとしても、KZN州内のほとんどの地方政府議会にANC議員がいる。国会・州議会選挙とは異なり、地方議会選挙は比例代表制と選挙区制の併用制をとるため、選挙区選出議員は特に地元と強い結びつきを持ち、地元に対する影響力も大きい。

第2に、ANCがIFPの伝統的な支持基盤の切り崩しに成功したという点が挙げられる。IFP党首のブテレジはしばしばズールー王家との親戚関係を強調し、IFPをズールー人の伝統的制度の保護者と位置づけてきた。だが、1994年以降、ANC政権は伝統的指導者の地位を認めつつ、国会や州議会とは別に伝統的指導者の代表機関を設けることで、王家や伝統的権威を政党政治から切り離そうとしてきた。2005年にはKZN州政府が「KZN州伝統的指導者統治法」を制定し、ズールー王をKZN州の君主として認め、王を含む伝統的指導者の役割を規定する一方で、伝統的首長の給料や年金については州政府の負担とすることを定めた。伝統的指導者はもはやIFPに依存する必要がなくなったのである。

第3に、IFP自身が世代交代をはかれなかったことで組織の停滞を招き、政党としての独自色を打ち出せなくなったことがIFPの凋落を決定づけた。内部で熾烈な権力闘争をしながらもANCがマンデラ ムベキ ズマと指導者を交代し、新首脳部の選出や世代交代をはかってきたのに対し、IFPは一貫してブテレジが党首を務めてきた。今

回の選挙では、KZN州北部のズールーランド広域地方行政府の首長を務めるザネレ・カマグワザ＝ムシビを党内のナンバー2のポストである州知事候補兼全国オーガナイザーとし、都市部の女性票の獲得を狙ったが成功しなかった。

2009年選挙における敗北が明らかになった直後、IFP青年部は首脳部の選挙戦略を痛烈に批判し、引責交代を求める声明を発表した(*Mail and Guardian*, 15-21 May 2009)。IFP内部で改革派が首脳部の刷新を求めるのは今回が初めてではなく、2005年にはIFPを二分する権力闘争が党内で起こったものの、最終的に改革派が敗北しブテレジの地位は揺るがなかった^{†1}。今回の声明の中で、IFP青年部はブテレジ以外の首脳部の交代を求めるなどブテレジはIFP内で絶対視されている様子がうかがえるが、ブテレジ自身が引退しなければIFPは変わらないという意見は、外部のコメンテーターのみならずIFP内部にも存在する(*Mail and Guardian*, 17-23 April 2009, 22-27 May 2009)。1975年のインカタ結成当時から党首を務めてきたブテレジの引き際が問われているのである。

3. ANC率いる州政府の健闘

ライバル政党の弱体化に加えて、2004年にANCがKZN州政府与党となって以降、州政府がインフラ整備に尽力しサービス供給面での改善が見られたこともANCに対する評価につながったと考えられる。初のANCのKZN州知事となったシブ・ンデベレのもと、州政府は道路、学校、ク

† 1 “IFP braces for internal battle,” 9 May 2005. (http://www.news24.com/News24/South_Africa/Politics/0,,2-7-12_1702309,00.html 2009年7月6日閲覧)



リニックなどの建設や農村電化を中心とする州北部のインフラ整備に力を注ぐことで、従来、IFPの牙城であった地域に支持者を増やしていったのである(*Mail and Guardian*, 24-29 April 2009, 1-6 May 2009)。ンデベレが今回の組閣で運輸相に抜擢されたのは、州知事としての実績をANC首脳部に買われてのことだとされる。

ただ、ANC率いる州政府が州北部のインフラ整備に尽力したことは事実としても、ANCのもとで州内の公的サービスが劇的に向上したとまでは言えない。たとえば、公立病院の人材不足や患者受け入れ体制の不備という点では他州と同様であるし、KZN州前保健相には収賄の容疑がかけられ、現在、裁判で係争中である(*Natal Witness*, 2 June 2009)。ANC率いる州政府の政策的前進は、今回の選挙でANCが得票率を増加させた一因であるが、十分条件ではない。

4. ANCの分裂とズマ・ファクター

今回の選挙でANCが前回の選挙よりもはるかに得票率を伸ばした事情を説明するにはこれまで考察してきた2つの理由では不十分であると筆者は考える。ANCの大躍進をもたらした3つ目の要因として、選挙前に起こったANCの分裂のあり方とそれがKZN州に与えたインパクトについて最後に述べたい。

今回の選挙の結果、南ア初のズルー人大統領が誕生した。旧クワズルー北部の貧しい農村地帯ンガンドラ出身のジェイコブ・ズマ大統領である。1994年選挙後のKZN州IFP-ANC合同政権で州の経済問題担当相を務め、選挙後も続いていたANC支持者とIFP支持者との間での暴力抗争の調停役を務めるなど、ズマはもともとKZN州内では強い影響力を持つ政治家だった。ANC側

の調停者として大きな功績を残したことが全国区への躍進をもたらしたとされるが、大統領就任に至る過程は決して平坦な道のりではなく、ズマ大統領誕生にあたってはANCを二分する熾烈な権力闘争が行われた(本号、牧野、津山論文参照)。

ズマ派に結集した人々は、ムベキによる集権化に反発した南ア労働組合会議(Congress of South African Trade Unions: COSATU)や南ア共産党などの左派に加えて、青年同盟などANC内部のさまざまな反ムベキ派集団であったが、KZN州においては、ムベキとズマの争いがエスニシティの側面から捉えられたという事実を無視することはできない。KZN州の圧倒的多数を占める黒人アフリカ人にとり、ムベキ対ズマの戦いは「コーサのムベキ対ズルーのズマ」の戦いであり、ズマ大統領の誕生はズルー人大統領の誕生であった。ズマ率いるANCの誕生によりANCがコーサ人の組織であるという風評は完全に否定された。ANCは分裂したが、KZN州のANCはズマ派で一致団結して、ポロクワネ党大会と総選挙に臨むことができたのである。

さらに、ズマがポピュリズムに訴える政治家であったこともメディアが「止められないズナミ [ズマと津波をもじった言葉 引用者注] 」と呼ぶズマ旋風を巻き起こすことにつながった(*Mail and Guardian*, 14-20 December 2007)。2005年6月に副大統領職を解任されて以降、収賄の罪で起訴され、続いて強姦罪で訴えられるなど、ズマにはスキャンダルも多い。ところが不思議なことに、政治家として致命的とも思われるこれらの裁判を通じて、ズマは逆に一般民衆の間で人気を高めていった。ズマの収賄疑惑裁判が開かれたKZN州ピーターマリッツバーグでは、裁判の度にズマの顔写真が印刷されたTシャツを着た大勢の若者を中心とするズマ支持者が法廷の前で裁判に抗議し

てデモを行う光景が繰り返され、ズマを讃えるポピュラーソングを歌うグループは15万枚のCDを売り上げた。政治集会でテーマソングの「*Umshini Wami* (俺のマシガン)」を歌って踊り、ンガンドラ出身の普通の人間にすぎないことを繰り返して「エリートのムベキ対庶民の味方ズマ」の構図を作り上げることで、ズマはANCの党首戦と総選挙を戦い、勝利したのである(*Mail and Guardian*, 6-12 March 2009)。

ズマ・ファクターがおそらく最大の効果を発揮したのが、ズマの出身地ンガンドラにおけるKZN州議会選挙である。ANCの得票率が7.44%(2004年選挙)から50.01%(2009年選挙)へ劇的に増加した一方で、2004年選挙では9割近い得票率を誇っていたIFPのそれは48.14%(2009年選挙)まで減少した。

おわりに

2011年地方議会選挙への含意

KZN州議会選挙の動向が注目される最大の理由は、ANCとIFPの政治的競合が支持者間での暴力的対立を引き起こしかねないという懸念が存在するからである。現地の報道を見る限り、今回の選挙に至る過程における暴力的事件はANC支持者とCOPE支持者間の対立が中心だったようである。ANC内部の権力闘争ではズマ支持で一丸であり、ANCから分離したCOPEに対する支持もほとんど存在しなかったため、KZN州では選挙戦をめぐる暴力事件はむしろ少なかった。しかしながら、選挙後、KZN州ミッドランド地方のIFP率いるウムボティ(グレイタウン)地方議会のIFP議員が暗殺され、その2週間後にはグレイタウンでANC議員が銃殺される事件が起こるなど、

ANC-IFP間の抗争は完全に消滅したわけではなく、これらの事件は2年後の2011年に行われる地方議会選挙の前哨戦とみなされている(*Natal Witness*, 26 May 2009, 9 June 2009, 24 June 2009)。

今回の州議会選挙では、IFPが支配権を握る自治体の多くでANCが得票率を伸ばした。現在、KZN州の61の地方自治体(広域地方行政府含む)のうち、過半数の32の地方議会においてIFPが与党の座を占めているが(*Mail and Guardian*, 1-6 May 2009)、次回の地方議会選挙では、今回の州議会選挙同様にANCが得票率を伸ばすことが予想される。だが、その際には今回のようなANC内部の権力闘争に伴う選挙キャンペーンの勢いやズマのズールー人アイデンティティとポピュリズムに強く訴えかける手法でANCが選挙を戦うことはできないだろう。IFPの立て直しが実現するかどうかは疑問であるが、次回の地方議会選挙では、圧倒的多数派を勝ち取ったANC率いるKZN州政府のパフォーマンスがよりいっそう問われることになるだろう。

【参考文献】

- Fikeni, Somadoda [2009] "The Polokwane Moment and South Africa's Democracy at the Crossroads," in P. Kagwanja and K. Kondlo eds., *State of the Nation: South Africa 2008*, Cape Town: HSRC Press, pp. 3-34.
- Maré, Gerhard, and Georgina Hamilton [1987] *An Appetite for Power: Buthelezi's Inkatha and the Politics of 'Royal Resistance'*, Johannesburg: Ravan Press.
- Russell, Alec [2009] *Bring Me My Machine Gun: The Battle for the Soul of South Africa from Mandela to Zuma*, New York: Public Affairs.
- Sitas, Ari [2008] "The Road to Polokwane? Politics and Populism in KwaZulu-Natal," *Transformation*, 68, pp.87-98.

(さとう・ちづこ / 地域研究センター)

